

藤井寺市役所、藤井寺保健所、大阪南消防組合、はびきの医療センター、医療法人ラポール会が合同で災害訓練を実施しました。R6.6.30

藤井寺市民病院が閉院となり、当院は令和6年4月から市民病院の診療機能を引き継ぎ、市の災害医療センターの役割を担うこととなりました。そこで令和6年6月30日初めての合同災害訓練を実施しました。

訓練は、「藤井寺市内で震度5弱の地震が発生し、集合住宅の倒壊、負傷者が出た。病院の建物設備に問題はなく診療継続可能である」という設定で行われました。

<訓練参加機関>

藤井寺市役所

大阪府藤井寺保健所

大阪南消防組合

大阪はびきの医療センター

医療法人ラポール会

青山病院

青山脳神経外科病院

青山藤ヶ丘病院

<来賓>

藤井寺市議会

藤井寺市医師会

藤井寺市区長会

参加人数・・・藤井寺市役所、藤井寺市医師会、藤井寺市区長会からの来賓・見学の方々を含めると100人を優に超える人たちが参加しました。

開会式



藤井寺市長 岡田 一樹



藤井寺市医師会長 藤本 恭平



ラポール会理事長 樋口 和秀

開会式は、市役所主導のもとに行われ来賓の方々のご挨拶、訓練の流れについての説明がありました。藤井寺市はこれまで比較的災害被害は少ないものの、南海トラフ地震や大雨災害等が今後起こる可能性が高いと予想されており、訓練の必要性についてお話がありました。

準備の様子



病院、自治体、消防組合の方々と分担して会場を設置していきました。

各エリア配置と災害対策本部を設置



▲ 災害対策本部は2F会議室。



▲ トリアージエリア(重症度の判断) 第一駐車場。



▲ 緑エリア(治療保留群)は 第一駐車場。



▲ 赤エリア(緊急治療群)は救急外来、黄エリア(準緊急治療群)は外来診察室。



▲ 黒エリア(救命困難群)は別館1F。



藤井寺市より災害医療センター開設の要請を受ける。当院災害対策本部長の岡田院長より、招集指示があり1F外来センター前に集まりました。各エリアに配置するスタッフの名前・役割が振り分けられ、それぞれの場所に移り、訓練開始。

災害訓練の各エリアの様子



▲ 現場指揮本部



▲災害現場でレスキュー隊による
1次トリアージ(重症度の判断)

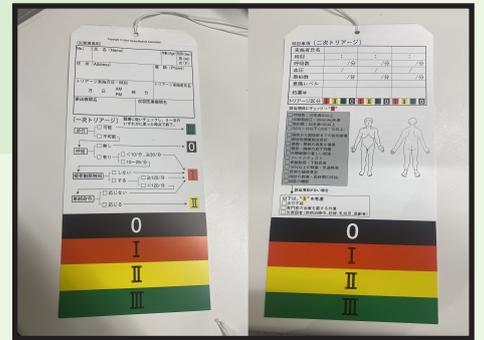


▲ 病院へ搬送

トリアージとは、災害発生時に多数の傷病者が発生した場合に、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を定めること。



▲ 2次トリアージ(重症度の判断) ▲



▲トリアージタグ



▲搬送部隊が各エリアへ搬送▲



▲ 赤エリア(緊急治療群)



▲ 黄エリア(準緊急治療群)



▲ 緑エリア(治療保留群)

<災害訓練エリア別患者数の内訳>

緑エリア 11名

黄エリア 5名(搬送1名)

赤エリア 2人

黒エリア 1人

赤エリア→黒エリア 1人

合計 20人

閉会式・講評



▲ 大阪南消防組合柏羽藤署長の総評をもって閉会



▲ 片付けの様子



▲ 病院の反省会

2024年1月1日16時10分にいやな揺れを感じてテレビをつけました。能登半島地震とよばれることになるマグニチュード7.6、震度7という、内陸部発生型の地震としては稀有な激しさの地震でした。その後、テレビから流れてくる映像に息をのみました。不謹慎にも、他人事ではない、明日にも大阪府で同様のことがおこるかもしれない、と感じました。



青山病院 院長
岡田 薫

2024年3月末で藤井寺市民病院が閉院となり、ラポール会が藤井寺市災害医療センターとしての役割を担うことになりました。防災意識を高めていた矢先の地震でした。そこから災害対策委員会をリーダーに防災関連の準備を急ピッチで仕上げていきました。そして、今回、藤井寺市役所、保健所、大阪南消防組合、ラポール会での合同災害訓練が実現しました。来賓の方々にお越しいただき当院の取り組みを見ていただきました。結果は、とても満足の行くものではありませんでしたが、当院の問題点をあぶり出すにはとても有効でした。今回の訓練を踏まえてこれからの地域の防災を担える病院としてどんどん進化していこうと考えています。ラポール会職員のみなさんご協力を期待してやみません。



ラポール会 理事長
樋口 和秀

最近、地震や風水害が多発しています。いつ何時この藤井寺で起こるかわかりません。

“備えあれば憂いなし”です。今回をきっかけにいろんなケースに合わせた訓練を繰り返していきたいと思います。市民病院が閉院となった今、我々の青山病院が住民の方々の命をお守りする重要な役割を担っています。身の引き締まる思いです。住民の方々、藤井寺市役所の方々、消防署の方々、藤井寺市医師会の先生方みんな協力して、藤井寺および住民の方々を災害時に救援できるように、これからも訓練を重ねていきたいと思います。皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。